

児童虐待の増加・深刻化が言われて久しく、2004年度の児童虐待の相談処理件数は過去最高の3万件をゆうに超えてしまいました。この問題についての一般的な理解といえば、虐待は現代家族の孤立や親の被虐待経験などが原因であり、カウセンシングや家族療法を行い、個人や家族を変化させ、虐待の連鎖を断ちきらなくてはならない、といったものでしょう。言い換えれば、それ以外の側面については、ほとんど関心が向けられていません。

たとえば、児童虐待が、まだに「母親の問題」としてたてられていることの問題性、虐待と判定された家族において、生活保護受給や市町村民税・所得税の非課税世帯の割合の高さは際だつているのに、カウセンシングは提供されても経済的な支援はなされないこと、乳幼児健診を通じ

て乳幼児のいるすべての家庭に虐待リスクチェックが実施されつつあること、等々。また、親と子どもへのカウセンシングなどについて、日本の児童虐待対策は米国を手本にしてきましたが、その米国において30年におよぶ対策にもかかわらず児童虐待件数は一向に減少していないことはまったく検討されないうままです。本書の書き手は、児童相談所の児童福祉司、現代思想、社会政策、シエnder論の研究者たちです。児童虐待政策における保護者個人の責任や「こころ」への過度な焦点化は、社会的資源の不足、家族の経済的な困難さという重要な問題から、人々の注意をそらすための社会的装置として機能しはじめています。このような事態を危惧するのは本書の執筆者だけではないはずです。

化学工学は工業化学と混同されがちですが、実は化学に必要な混合・加熱・冷却などをうまく行うための学問です。反応装置の設計や、蒸留、抽出、晶析などの各種分離精製手法も化学工学の守備範囲です。もともと化学工学の守備範囲です。もともと反応装置や化学工場の設計や運転を行うための学問として生まれましたが、いまではその応用範囲を広げ、環境、原子力、食品、鉄鋼、自動車、バイオなど多くの分野で応用されています。

本書は化学工学の基礎となる移動現象、単位操作、反応工学を中心に項目を取り上げ、分かりやすく解説したものです。化学工学についてはこれまでに多くの教科書が出版されていますが、いずれも専門的なものがほとんどで、その要点を短時間で効率よく学習するために使え

る書物は見あたりませんでした。本書では、身近な現象を交えた説明を多く取り入れているほか、各項目に例題を設けることで、化学工学に親しみをもちながら勉強できるようにしています。化学工学を本格的に勉強するには、予備知識として高校レベルの数学、物理や化学が必要ですが、本書はこれに自信が無い方も読んでいただけるような構成になっています。

大学での学習内容を知りたい高校生や、化学工学についていまいと理解が進まない大学生、また化学工学を本格的に勉強する前に、全体的なイメージをつかみたい全ての方にお勧めします。

『児童虐待のポリテイクス  
-「こころ」の問題から  
「社会」の問題へ-』

出版社: 明石書店  
定価: 2,415円(税込み)  
発行日: 2006年  
総合科学部人間社会学科教授  
上野 加代子 編  
うえの かよこ



『はじめて学ぶ化学工学』

出版社: 工業調査会  
定価: 1,995円(税別)  
発行日: 2006年4月10日  
福岡女子大学 環境人間学部  
生活環境学科 教授  
草壁 克己 くさかべ かつき

徳島大学 工学部 化学応用工学科 講師  
外輪 健一郎 そとわ けんいちろう



とくtalkへのご意見

●(一部略)これから進学を考える立場の人達、高校生や保護者、現在の学生やその家族の心に入り込める記事が必要なのではないでしょうか。

→ご意見はまさに「徳大広報の編集基本方針」と一致しております。保護者の方達を含め学外の方達にも広報誌を配布しておりますので、外部の方達にも熱心に読んで頂ける内容にするよう努力いたします。

●学部学生の声をもっと載せるべきだと思います。広告スペースにも余裕があるようだし、そういうスペースにサークルや部活の広告を載せてもよいのではないのでしょうか? →本秋号は「徳島大学の学生パワー」を紹介しております。今後も学部学生・大学院生に関する記事について、いろいろな側面から紹介していきたいと思ひます。広告掲載については、「とくTalk」を全学生の保護者へも配布する等、部数の大幅な増大と内容の拡充のために必要な措置ですので、ご理解をいただきたいと思ひます。